



令和5年度 学校だより 10月号

～ひとがすき まちがすき いわさきの子～

横浜市立岩崎小学校 電話 331-5123 FAX 331-5343



ハチがいなくなったら？

校長 小林 雅弘

校門近くにスズメバチの巣が

もうすぐ夏休みが明けようとしていた8月下旬、西門付近の学校敷地内の木に、縦30cm、横20cmほどのキイロスズメバチの巣を発見しました。



実際の巣の一部

すぐに駆除業者に連絡しましたが数日後の8月29日になるとのこと。巣を撤去しても数日は「戻りバチ」

が巣を探しに飛来するため、西門利用の子どもたちには、最初の1週間通学路の変更をお願いしました。近隣の住民の皆様、保護者の皆様にはご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

巣はたった1匹の女王バチが作り始める

スズメバチなど多くの種のアチは、4～5月頃、冬眠から目覚めた女王バチがたった1匹で巣を作り始めます。ミツバチを除くほとんどのアチは越冬できずに死んでしまうからです。女王バチは巣を作りながら産卵を繰り返し、少しずつ働きバチを増やしていきます。

7～8月になると、たくさんの働きバチにより巣作りは加速度的に進みます。本校にできたスズメバチの巣も、わずか1か月ほどで急激に大きくなったようです。

駆除業者の方のお話では、「今年ほど依頼が多いのは初めて。」とのことでした。例年とは比べものにならないくらい猛暑の今年の夏とアチの巣に何か関係があるのでしょうか。

学校のアチはいなくなったけれど

アチの巣の駆除も済み、飛来するアチも見なくなりました。子どもたちの安全を考えればアチがいなくなることはうれしいことですが、果たしてよいことだけでしょうか。アチとの関係を「安全」という側面から「環境」という側面に視点を変えて考えてみましょう。

もし地球上からアチがいなくなったら

「もし、地球上からアチが消えたなら、人間は4年しか生きることができない」これは、アインシュタインの言葉といわれています。その真偽は分かりませんが、アチが私たち人間の生活を支えていることは事実です。

例えばミツバチは、花の蜜を集めるために花から花へ移動します。その際からだについてた花粉が植物を受粉させ、それによって果実が育ちます。アチによる受粉がなければ、世界の農地の35%で収穫量が低下し、世界の主要な農作物の87品種が影響を受けると言われています。ベリー、リンゴ、カボチャ、タマネギ、キュウリ、キャベツ、イチゴ、メロン・・・多くの果物や野菜が食べられなくなるかもしれません。アーモンド、コーヒー豆やカカオ豆などもとれないため、チョコレートも食べられなくなります。また菜種油も不足し、天ぷらやフライなどの揚げ物もとてつもなく高価になるでしょう。それだけではありません。果実や野菜をエサとしている動物も食べ物を失い数を減らしていくため、肉も食べられなくなります。もしアチが地球上からいなくなったら、私たち人間も生きていけないのです。

「刺される」「怖い」といったマイナスのイメージがあるアチですが、世界の平和や安定を示すバロメーターであり、人間に計り知れない恩恵を与えてくれる生き物なのです。

近年、アチの数が大幅に減っている

現在地球上に存在するアチの数は、年々減少を続けています。2018年には、アメリカにおけるミツバチの40%が死滅または消滅したという報告がありました。日本でも突然大量のミツバチが姿を消したというニュースがたびたび聞かれます。もしかしたら、ここ数年の異常気象なども関係しているのかもしれない。アチたちが鳴らしている警鐘を私たち人間がしっかり受け止め、我が事として考える必要があるのではないのでしょうか。